

大宰府への道～古代都市と交通

平成30年（2018）は、昭和43年（1968）に大宰府史跡の発掘調査が始まってから50年を迎えます。この節目の年にあたり、大宰府史跡の調査研究を主導して来た当館では、これまでの調査研究をふまえた最新の成果を紹介する特別展を開催します。

大宰府は、その成立期も含めると、7世紀から12世紀にかけて、国防と外交、西海道と呼ばれた九州地方の統治を担った古代最大の地方官衙（役所）です。この大宰府独自の特殊な役割をはたすためには、中国・朝鮮半島諸国、藤原京や平城京など近畿地方の都城、九州島内および南島との交通の結節点に所在することが必要でした。

現在の太宰府市周辺は、古来、対外交流の窓口であった博多湾から15kmほど内陸に位置しますが、律令国家が完成する以前から、九州のさらに内陸部の筑後・肥前・肥後地域に向かう道と、豊前・豊後地域、さらには瀬戸内海を通じて近畿地方ともつながる道が最初に分岐する場所にあたります。大宰府が置かれたのは、まさに古代の交通上の要衝だったのです。

50年におよぶ調査研究によって、大宰府政庁跡と周辺官衙、水城や大野城などの防衛施設、観世音寺や筑前国分寺といった古代寺院の構造や時期変遷が明らかになり、大宰府の街区である条坊の存在も明確になり、さらに外国使節が滞在したとも言われる「大宰府客館」も新たに発見されています。このように近年急速に、都市としての大宰府の姿の解明が進みつつあります。飛鳥や奈良の都城、九州各地の国府、郡衙の出土資料と比較することによって、律令国家という日本列島で初めて成立した中央集権国家がもたらした、都城や大宰府、国府、郡衙に共通する都市としての特質とともに、その差異も明らかになってきています。

さらに、考古資料と文献史料の総合的な研究から、都市を結ぶ交通のあり方も解明されてきました。官道や駅家などの遺跡の調査成果と出土資料は、律令国家の交通を支えた施設の実像を具体的に示してくれます。また、そこで機能した交通体系は、律令の注釈書である『令義解』やその施行細則である『延喜式』によって、知ることができます。

そのような制度と施設だけではなく、さまざまな事情から旅をして、大宰府を訪れた人びとの姿や、大宰府を通過した文物も知られています。『万葉集』には、大宰帥として赴任した大伴旅人が筑紫で詠んだ歌が多く採録され、またその編者ともされる息子の家持の若き日の姿もみえます。辺境防備のために東国から九州に連れて来られた防人の悲哀も『万葉集』の歌から垣間見えます。無実の罪によって左遷された菅原道真公にとって、大宰府は失意の地でしたが、後に神として祀られ、墓所たる太宰府が信仰の聖地となる契機となりました。九州各地から民衆が大宰府に運び、納めた税の数々もその荷札木簡から知られます。求法のために、伝教大師最澄や弘法大師空海、慈覚大師円仁、智証大師円珍など、多くの高僧たちも大宰府を通過して唐に渡りました。また、遣唐使が唐から持ち帰り、天皇や貴族が珍重した舶来の文物も、大宰府を通過して都にもたらされ、それらの品々の一部は、正倉院に伝えられています。

以上の調査研究成果により、古代日本および東アジアの交流拠点であった都市・大宰府の重要性が浮かび上がりつつあります。発掘100年を迎える頃には、さらに豊かな古代大宰府の姿が明らかになっていることでしょう。



鬼瓦 都府楼跡出土（九州国立博物館所蔵）

平成30年度特別展 大宰府史跡発掘50年記念
「大宰府への道～古代都市と交通」

平成30年 4月24日(火)～
6月17日(日)に開催!



大宰府を行き交った人々



古代最大の地方都市であった大宰府は、「人物殷繁、天下之一都会」と称され、多くの人やものが行き交っていました。都からは大宰府の官人が赴任し、大宰府管下の西海道諸国（九州各地）からは郡司・兵士・工人らが上番し、農民により税物が貢納されました。また、遣唐使や入唐僧・渡来僧は大宰府を発着地として中国の先進的な文物や思想をもたらしました。大宰府には、万葉歌人である大伴旅人や漢詩人の菅原道真、入唐僧である空海や最澄など、当代を代表する文化人が訪れています。そして、筑紫の風趣と異国の情緒に触れ、望郷の念を抱きつつ優れた和歌や漢詩文を作りました。

奈良時代、大伴旅人は大宰府の長官である大宰帥として赴任し、筑前守であった山上憶良らとともに万葉筑紫歌壇を開花させ、梅花の宴の歌群をはじめ多くの秀歌を残しました。旅人の息子である家持が編纂した『万葉集』には、筑前の夷守駅家や蘆城駅家で詠まれた送別の歌が収められています。そこには長男の家持が旅人の見舞いのために訪れた天皇の使いを夷守駅家で見送ったときの作歌や、旅人が大納言となって帰京する時に大宰府の官人たちが蘆城駅家で催した宴で詠まれた送別歌があります。これらの駅家は、駅鈴を持った使者や官人に馬や食料を提供する交通施設であるとともに、送別会の会場としても使われていたことがわかります。大宰府史跡から出土した木簡の中には、駅家に鯛や鯖、生鮑などの海産物が届けられていることを示すものがあります。おそらくこれらの海の幸は、宴会の食材として使われたと考えられます。

平安時代、右大臣であった菅原道真は、政争により実権を有さない権帥として大宰府へ左遷されました。道真の生涯を描いた天神縁起絵巻には、道真が陸路と海路を使って九州へ西下する姿が描かれています。道真の赴任にあたっては、路次の国々に対して馬も食料も支給してはならないとの厳しい通達が出されていました。道真は漢詩の中で蹄が破れ疲れ果てた馬を見送り、半分船尾が壊れかかった船を港で迎えたことと詠じています。結局道真は帰京することは叶いませんでしたが、大宰府での作詩を収めた『菅家後集』

が今に伝えられています。その中には大宰府政庁の建物を指す「都府楼」や道真の公邸とされる「南館」、都の「右京」に対して大宰府条坊を意味する「右郭」など、当時の大宰府の景観を復元する上で貴重な内容が含まれています。

大宰府には高僧たちも訪れています。天台宗を開いた最澄は大宰府政庁の東北の方角にそびえる霊峰宝満山に籠り遣唐使船の航海安全を祈願して薬師仏をつくり、真言宗の開祖空海は唐からの帰国後に観世音寺へ入り入京の許可を待ちました。延暦寺の座主となる円珍もまた大宰府で渡唐の許可書（パスポート）をもらって渡航し、帰国すると「大宰府客館（鴻臚館）」に滞在して入京の機会を待ちました。彼らにとって大宰府は目的地ではなく、中国へ渡る対外交流の拠点であり、大陸で学んだことを反芻・熟成する場でもありました。



元暦校本万葉集（国宝：東京国立博物館所蔵）



陽岐国駅鈴
（国指定重要文化財 個人所蔵）

九歴名品探訪 Vol.6 「大宰府政庁の地鎮具」

今から50年前、大宰府史跡発掘調査の第1次調査が大宰府政庁の中門と南門を対象に実施され、それぞれの建物に伴う地鎮具が発見されました。地鎮具は須恵器で、中門の基壇盛土中から短頸壺（写真中）、中門基壇の周辺から長頸壺（写真左）、南門の基壇盛土中から短頸壺（写真右）が見つかりました。

中門と南門の基壇から見つかった短頸壺はよく似ていますが、中門の壺が算盤玉のように屈曲する少し扁平な体部で、外側に踏ん張るような形の高台であるのに対し、南門の壺はさほど扁平ではなく、肩部も少し丸味があり、断面方形の高台をもつなど、やや新しい要素を備えています。いずれの短頸壺とも外側に赤色顔料が確認でき、中門の壺には水晶と琥珀、南門の壺には水晶と小石が納められていました。

一方、中門基壇の北西側で見つかった長頸壺は、ラッパ状に広がる長い頸部が特徴で、体部が算盤玉のように強く屈曲します。外面には赤色顔料がみられず、壺内には何もありませんでしたが、酒等の液体が入っていた可能性も指摘されています。場所や形態、内容物の違いから、基壇中の短頸壺とは少し性格が異なるようです。

これらの地鎮具は、形態的な特徴から8世紀前半代の製品と考えられます。いずれも第Ⅰ期建物から第Ⅱ期建物への建替え時の造成土や基壇盛土中から見つかり、第Ⅱ期政庁の造営時期を推定する重要な手掛かりの一つです。



大宰府政庁出土 地鎮具

文化財サイエンス・ラボ Study6 「あまく固める木簡」

福岡県みやこ町の豊前国府跡からは呪符木簡という貴重で珍しい木簡が出土しています。この木簡は12世紀後半頃の井戸跡から出土しており、片面に占事を意味する呪符が墨書されています。残念ながらどのような占事を意図したものかは不明ですが、豊前国府跡は求菩提山と近い場所にあることから、求菩提山と関係のある木簡ではないかとも考えられています。

ところで、この呪符木簡が見た目からは想像できないほど脆くなっていることはお分かりでしょうか。遺跡から出土する木器は長い年月土中に埋まっていたため、バクテリアや菌類などにより木材を構成する成分が分解されその大部分が失われています。劣化の状況はコルク程度の比較的固いものから木綿豆腐の様な柔らかさのものまで様々です。そのため、木器を安全に展示するためには科学的な処置（保存処理）が必要です。

九州歴史資料館では「トレハロース」というお砂糖で木器の保存処理をしています。トレハロースは自然界に存在する糖でパンやケーキ、お弁当など食品を中心に様々なものに使われています。食品やお菓子にも使われているためそれとは意識せず口に入っていることがあるかもしれません。木器の保存処理では、まずトレハロースを溶かした砂糖水に木器を漬け込み、木器に砂糖を浸み込ませていきます。

砂糖水のトレハロース濃度を段階的に上げていき、木器の内部に十分にトレハロースが浸み込んだところで砂糖水から取り上げます。水に溶けていたトレハロースは取り上げると同時に結晶となり木器を強化してくれるのです。取り上げたばかりの木器は砂糖まみれで真っ白になっていますが、表面の余分なトレハロースを取り除くと木目の一本一本まではっきりと分かるほどの美しい木器の姿が表れます。トレハロースは蟻や蝶などの昆虫が好んで食べる糖でないため、安心して展示や保管をすることができます。また、食品に使われることから分かるように人には全くの無害で、元々自然界に存在していた糖のため化学薬品のように環境に悪影響を及ぼすこともありません。脆弱だった木器は、人にも環境にも優しい方法によってあまく固められています。

今回ご紹介した呪符木簡は2018年4月24日（火）から開催する特別展「大宰府への道—古代都市と交通—」で公開します。

お砂糖で仕上げた呪符木簡の姿を是非ご自身の目でご賞味ください。

呪符木簡（右）・呪符木簡赤外線写真（左）



展示紹介 平成30年度 上半期に開催する展覧会

大宰府史跡発掘50年記念特別展「大宰府への道—古代都市と交通—」

4月24日（火）～6月17日（日） 第1・4展示室

企画展「きゅうおにとタイムトラベル」

3月6日（火）～9月2日（日） 第2展示室

縄文時代～古代のくらしについて、出土資料やイラストでわかりやすく解説します。

パネル展「シルクロードの文化遺産（2）海の道」

6月19日（火）～9月9日（日） 文化情報広場

シルクロードの海の道に関する文化遺産を、西谷正名名誉館長撮影の写真で紹介いたします。

企画展「幕末の城—近世の沿岸警備と幕末期城郭—」

6月30日（土）～8月12日（日）会場 第1展示室

近世日本は戦いのない平和な時代であった一方で、異国船に備えた沿岸警備のための遠見番所や烽火（のろし台）、幕末には攘夷・討幕運動の中で、台場や御殿などの「城郭」が新たに築かれた時代でもありました。本展では文献・絵図・出土資料の展示を通じ、福岡県及び周辺の遠見番所・烽火台などの防衛施設、さらには幕末に築造された「城郭」について紹介します。



犬鳴御別館絵図
（宮若市指定文化財・宮若市教育委員会蔵）

第1展示室 閉室の お知らせ

九州歴史資料館では、展示室の天井工事に伴い、平成30年8月中旬～平成31年10月の間、第1展示室を臨時閉室、また、平成30年10月～11月の間の10日間程度、全館臨時閉館させていただきます。ご利用の皆様には大変ご迷惑をおかけしますが、ご理解のほど、なにとぞよろしくお願い申し上げます。正確な日程については、平成30年7月頃にホームページ等でお知らせします。

九州歴史資料館	行事・事業予定
展 示	常 設 展 示：「歴史(とき)の宝石箱」(第1展示室) 4月1日(日)～11日(水)・6月30日(土)～8月12日(日) 特 別 展 示：4月24日(火)～6月17日(日) 大宰府史跡発掘50年記念「大宰府への道ー古代都市と交通ー」 企 画 展 示：2月10日(土)～4月11日(日)「堅粕薬師と東光院の古仏たち」 3月6日(火)～9月2日(日)「きゅうおにとタイムトラベルー大昔のくらしと国づくりー」 6月30日(土)～8月12日(日)「幕末の城ー近世の沿岸警備と幕末期城郭」(明治150年記念企画展) 9月11日(火)～12月2日(日)「大宰府史跡発掘50年のあゆみ」 パネル展：3月27日(火)～6月17日(日) 「保存科学成果展・古賀市船原古墳遺物埋坑調査の最前線ー2017ー2018ー」 6月19日(火)～9月9日(日)「シルクロードの文化遺産(2) 海の道」 古 代 体 験：毎週土・日と祝日に、九歴ボランティアによる古代体験実施中(予約不要。有料・無料有)
講座・イベント	名誉館長講座：全12回の連続講座「東アジアの考古学入門」(申し込み受付は終了しました) 九 歴 講 座：全12回 毎月第2土曜日定員(160名) 九 歴 ゼ ミ：7～9月「史料が語る大宰府の歴史ー菅原道真の生涯編ー」 (定員50名 要申込、申込多数の場合は抽選、5月より受付開始) 夜のギャラリートーク：4月27日(金)・5月25日(金)・7月27日(金)(16:30～17:30開催、申込不要、要観覧料) 講 演 会：6月3日(日)特別展開催記念講演会「大宰府への道ー文明のクロスロードー」 7月22日(日)企画展開催記念講演会「幕末の城」 イ ベ ン ト：5月20日(日)特別展開催記念茶会 7月7日(土) きゅうれき七夕イベント 各種夏休み子どもイベント(歴史教室・考古学教室・組紐教室・ナイトミュージアム など)
発掘調査	大宰府史跡調査(蔵司地区)・県内遺跡発掘調査 4月～9月

求 菩 提 資 料 館	常 設 展 示：「求菩提修験道の世界」 企 画 展 示：4月21日(土)～5月27日(日)「創るー藤本健一郎のやきもの」 4月21日(土)～5月20日(日)第7回「ふるさと写真コンクール」入賞・入選作品展 市民歴史講座：テーマ「いにしへの記憶ー豊前の国の民俗芸能」6、7、9、10、11月に実施 史跡ガイド活動：申し込みに応じて豊前市内の史跡をガイドします。
甘 木 歴 史 資 料 館	常 設 展 示：「朝倉の考古資料と民俗歴史資料」 春 季 節 展 示：3月1日(木)～4月8日(日)「あ！さくら展ー春爛漫ー桜が主役の作品展ー」 10回目となる作品展。最終回です。庭園の桜の花を眺めながら春のひとときをお楽しみください。 夏 季 企 画 展 示：7月3日(火)～9月2日(日)「朝倉・東峰復興祈念展①平塚川添遺跡と邪馬台国の時代」 平塚川添遺跡に特徴的な遺物について、北部九州の遺跡出土品を比較し、邪馬台国の時代を考えるものです。
柳 川 古 文 書 館	企 画 展 示：～4月3日(火)「松井家・立石家のおひな様」 常 設 展 示：4月7日(土)～10月8日(日)「古文書をたのしむー見方・読み方・調べ方」 会期中、一部展示品の入替をおこないます ＊展示替えに伴う臨時休館日：4月4日(水)～4月6日(金) 古文書入門講座：7月に募集予定、8月～9月の土曜日に実施予定(全4回) 古文書を集中して学ぶ初心者のための講座です。

※各館の行事や休館日(閉室)等については、各館ホームページまたは直接お問い合わせください。



福岡県内の指定文化財

おおのじょうあと

大野城跡 [国指定特別史跡] 福岡県糟屋郡宇美町四王寺・太宰府市大字太宰府他

大野城跡は、水城築造の翌年、大宰府政庁跡背後の四王寺山(標高 410m)に築かれた古代の山城で、尾根線を周囲約 6.2kmの土塁で繋ぎ、谷部には石塁を設けています。中でも百間石垣は長さ約 200m、高さ約 8mと大規模なものです。城内からは礎石建物(倉庫)を中心に約 70 棟の建物が発見されており、籠城としての性格を有します。また、近年の調査で城門跡が9ヶ所存在することが判りました。

『日本書紀』天智天皇四年(665)八月条には、百済から亡命した憶礼福留と四比福夫の指導により基肄城とともに築城されたことが記されており、朝鮮式山城と言われています。



大野城跡 百間石垣

九州歴史資料館
KYUSHU HISTORICAL MUSEUM

〒838-0106

福岡県小郡市三沢 5208-3

☎ 0942-75-9575

FAX 0942-75-7834

URL <http://www.fsg.pref.fukuoka.jp/kyureki/>

開館時間 午前9時30分～午後4時30分(入館は午後4時まで)

観 覧 料 第1・3展示室のみ有料。
 一般200(150)円 高校生150(100)円
 ※満65歳以上・中学生以下・障がいの
 ある方(同伴介護者1名)無料
 ※土曜日は高校生も無料
 ※()内は団体料金(20名以上)
 休 館 日 月曜日(ただし祝日・振替休日の場合はその翌日)
 年末年始(12月28日～1月4日)



●公共交通機関

《西鉄電車》天神大牟田線三国が丘駅から徒歩約 10 分
 《JR》鹿児島本線原田駅からタクシーで約 5 分

●自動車

《九州自動車道》筑紫野 I.C. から鳥栖筑紫野道路経由で約 15 分
 《大分自動車道》筑後小郡 I.C. から国道500号線・県道88号線経由で15分
 《福岡都市高速》水城出口から国道 3 号線経由で約 25 分

